

教育長室だより

第 34 号
2022.4.21

昼間車に乗ると、うっすらと汗をかくほどの陽気となって参りました。

学校はまだ新学期の勢いの感じられる時期が続いているものと思います。身体測定など新学期ならではの行事も多い特別感のある時期です。連休明けから“ふつうの学校の日常”が始まります。それからが学校の本番です。

○

今回は“子どもにとって学校の勉強とは”、という学習の本質に関わる問題について少し考えてみます。これは最近ネットニュース（4月13日の週刊SPA！より）で見つけた記事からヒントを得て考えたことです。その記事は韓国出身の28才のAI研究者で、高校に行かず16才で日本の東大に合格(入学は18才)したという経歴を持つカリスという人が書いた記事です。

始めに言っておきますが、カリスさんのようにがんばって東大に受かるようなことばかりを賞賛しているのでは毛頭ありません。彼の言葉にわたしたち子どもを取り巻く大人が考えるべき大事なことを考えさせられたので取り上げるわけです。

少しずつお話しします。

○

まず、子どもは元来勉強好きか勉強嫌いかどうかでしょう。この場合“勉強”というのはどんなものを指すかが問題ですね。

① 学校の授業で算数の問題を解くような活動、② 漢字ノートに繰り返し漢字を書いて覚えること、③ 夏休みに自分で見つけた課題に取り組んで観察や研究をする活動、④ 好きな本を見つけて夢中で読むこと、⑤ 宇宙のことを知りたくて図書館でいろいろな本を探すこと、まだまだありますが、これらはすべて勉強だとすると子どもは元来勉強好きか嫌いかなどとは簡単に言えないことになりませんか。

もし①や②が嫌いな子が一定いるとして、③、④、⑤などは嫌いではできないので自分から好んでする勉強ですね。人に言われて、または自分から目の前のことに取り組むうちにいつの間にか多くの学びがあるのが勉強だと言えます。

○

「勉強熱心な子ども」や「勉強熱心な親」という言葉は学校でする勉強に熱心に取り組む、あるいは取り組ませることを言う場合が多いのでしょう。

ここで先のカリスさんの言葉を紹介します。「意味のない努力に自己満足している“勉強熱心”は報われない」という言葉です。それはそうだと思いますが、どんな努力波が“意味のない努力”なのでしょう。

○

カリスさんは子どもの勉強の際の脳の働きを「作業」と「勉強」に分けます。「勉

強」は脳に負荷をかけて新たな学びを得ること。一方「作業」は脳に負荷をかけずにルーティンワークをこなすことだと言います。これは机に長く向かって単純作業を繰り返すようなことであり、これもハードワークなので、子どもも“がんばった感”が得られます。しかしこれは自己満足に終わり、報われないというわけです。

○

この「作業」と「勉強」の二つの思考システムを“直感的で「怠惰」なシステム”と、“逆算的で「勤勉」なシステム”と言います。この脳の働きの二つのシステムについてわかりやすい説明があります。

「怠惰」なシステムに関して面白い例が出ていました。例文の初めのところだけ少し変えて紹介します。次の文を読んでみましょう。

「こんにちは みなさん おんげきですか？ わしたはげんきです。このぶんよしうはすらすらよめましたか。…」

もしかするとすらすら抵抗なく読めたかもしれませんね。でも、よく見ると単語の最初と最後の文字以外が入れ替わっていますね。「こんにちは」が「こんにちは」に「おげんき」が「おんげき」になっています。わたしたちの脳がこれを意に介せず読めてしまうのが脳の「怠惰」なシステムのはたらきだということです。子どもたちも同じようにいい加減な読みをしている可能性があります。これは今の子どもの大きな課題とされる読解力に関わる問題です。

○

今年の全国一斉学力調査のテスト問題が新聞に掲載されていましたがご覧になったでしょうか。少し読んだだけでも読み取る力、すなわち読解力がかなり高度に問われていることがわかります。脳の「怠惰」なシステムによって曖昧な読みをしていると問題がものすごく難しい問題になってしまいます。一字一句丁寧に読めば子どもたちの力でも理解できる問題が難問になってしまうのです。算数や理科でもきちんと問題を読み取って判断しなければ正解にたどり着けない問題がほとんどです。

○

学力調査の成績を上げること自体が本来的な目標ではありませんが、学力調査は身に付けるべき学力の性質を雄弁に物語っていると理解できます。人はものを考えるときに言葉を使って考えます。その言葉の力こそが学力の基盤だということです。

○

言葉の力を育むことについて学校でもより意識的に進めていく必要があると思っており、学校教育にも活かしていきたいと思えます。

また、これは、就学前の保育や日常生活でも考えていくべきことだと考えます。子どもが自分の言葉を持ち、気持ちや考えをうまく表現する力、人の言葉を正しく受け取る力、これらについてわたしたち大人も少しでも意識していかななくてはならないと思えます。まずは周りの大人が正しく言葉を使うことがとても重要です。